

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

312号

2017年2月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 釜山「慰安婦」少女像と韓日外交騒動について

ソウルの駐韓日本大使館前に建立された「平和の碑(少女像)」は、1992年1月8日から始まった日本軍「慰安婦」問題解決を求める被害者と、支援者たちが毎週水曜日に日本大使館前で「人としての尊厳の回復と日本政府の公的謝罪と賠償を求めて」始めた集会が20年を経過し、1千回を迎える2011年11月14日、水曜デモを主催してきた韓国挺身隊問題対策協議会が中心となって建立したものだ。

「平和の碑(少女像)」は、二つの椅子の向かって右側に少女がチマ・チョゴリ姿で日本大使館に向かって座っている。もう一つの椅子は空いていて「平和の碑(少女像)」の隣に座って「慰安婦」被害女性の痛みを分かち合い、「慰安婦」問題に思いを馳せる時間を過ごせるようにするための椅子だ。「平和の碑(少女像)」の傍らに「慰安婦」被害者で人権活動家の吉元玉(キル・ウォク) ハルモニ(お婆さん)が直接書いた一文が刻まれている。

このような「平和の碑(少女像)」が、韓国と日本の外交問題に浮上したのは2015年12月28日に記者会見の形で発表された、いわゆる日本軍「慰安婦」問題韓日外相合意だった。合意文章はなく、韓日外相が共同記者会見の形で口頭で合意した内容を公表した。韓国語の内容を見ると①日本軍の関与を認め、安倍総理がお詫びと反省を表明、②日本政府が10億円を拠出し、韓国政府が財団を設立して、被害者の「治癒」と「名誉と尊厳の回復」、③最終的に「不可逆」的に解決確認、④韓国政府は日本大使館前の「平和の碑(少女像)」設置に憂慮を表明していることに留意し、適切な解決に努力する、⑤両政府は国際社会で非難・批判を控えるなどが主な内容だったが、「慰安婦」被害者は当事者の意見を汲み取って

ないと一斉に反発する一方、岸田外相も「10億円は賠償金ではない」と表明するなど問題の多い内容だった。さらに「平和の碑(少女像)」の撤去が条件と取れる部分に韓国国内で反発が強く、野党を含む多くの韓国市民は政府に合意の「無効」と「再交渉」を求める動きが広がり、「平和の碑(少女像)」を守ろうと碑の横で青年学生たちがろう城する事態に至っている。

こんな中、韓日外相合意1年目の昨年12月28日、韓国の市民団体が釜山の日本総領事館前に



▲釜山市内に設置された少女像

「少女像」を設置して除幕式を行うことが明らかになった。しかし、釜山東区庁は行政代執行で「少女像」を強制撤去後、押収してしまった。これに怒った釜山市民と国民は抗議の声を東区庁に送った。抗議の電話で通常業務できないなど行政が麻痺するほどで、結局「少女像」は元の位置に戻されることになったが、日本政府はこの

措置に反発して駐韓大使と釜山総領事を一時帰国させる対抗措置を執った。

日本のマスコミは韓国側が10億円を受け取りながら、約束を破ったと韓国側を非難する論調が相次ぎ、韓国側も野党第1党の院内代表が「10億円を予備費から出して返そう」と発言するなど、騒ぎがさらに大きくなり、韓日間の外交問題になっている。「平和の碑(少女像)」の「平和の碑」の意味が薄れ、「少女像」が一人歩きしている部分はあるが、今回の騒動の一番の原因は、日本側の過剰な対抗措置にある。あわせて日本のマスコミの報道は常軌を逸しており、国民感情を煽り「嘘つき」韓国を印象付けようとしている。安倍政権の歴史修正主義に歩調を合わせるような動きに憂慮の念を示さざるを得ない。駐韓日本大使が「平和の碑(少女像)」に花束を献ずることが今求められている。(鉄)

## 親睦と交流を深めるとともに、 新たな運動に向けた決意を確認する 韓統連・韓青大阪本部 支部常任委員合同新年会 韓統連生野支部新年会

新年を迎え、「韓統連・韓青大阪本部支部常任委員合同新年会」と「韓統連生野支部新年会」が開催された。

最初に「韓統連・韓青大阪本部支部常任委員合同新年会」が1月7日(月)、がんこ桃谷店(大阪市生野区)で開かれた。



▲新年会で乾杯挨拶を行う金隆司代表委員

合同新年会では、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が乾杯挨拶を行い「昨年は韓国民衆のキャンドルの力によって、朴槿恵の弾劾訴追が国会で可決された。韓国民衆の勝利の第一歩」と述べながら、「今年は朴槿恵を退陣させ、大統領選挙で進歩勢力による政権交代の実現に向け、私たちが頑張っていこう」と語った。

その後は食事を交えながら、本部・支部常任委員同士が親睦と交流を深めるとともに、参加者全員から今年の抱負などが語られ、2017年も力を合わせて運動を推進していくことを確認した。

続いて「韓統連生野支部の2017年度新年会」が1月15日(日)、韓統連生野支部で開催された。

新年会には多くの会員、地域同胞、日本の友人たちが集う中、最初に金昌秀(キム・チャンス)韓統連生野支部代表委員が「今年は韓国の政権交代を見据えながら、必ずや祖国統一を志向する民主政権の樹立が求められる。激動の年になる」と乾杯挨拶を行った。

その後、ささやかな食事に箸を運びながら参加者間の親睦と交流が深められるとともに、あみだくじで順番を決めながら各参加者から新年の抱負が語られ、「韓国語の勉強をしたい」「韓国の情勢をもっと知りたい」「自身ができることをコツコツとやっていきたい」などの抱負が続き、金昌秀代表委員からは民族運動のバイブルとも言える「愛国論」「歴史の意思を実践する」を活用してより分かりやすく、理解するための「学習塾」を開催したい旨が話され、積極的な参加を呼びかけた。



▲和やかな雰囲気の中で進行した生野支部新年会

最後に、金昌範(キム・チャンボム)生野支部副代表委員から今後の活動予定が紹介され、当面の連続歴史学習会、韓統連大阪本部及び生野支部の定期総会の日程とともに、第24回統一マダン生野の日程(5月21日)が報告され、南北の休日が記載された特製カレンダーが配られた。

朝鮮半島情勢の激動の年を迎え、決意も新たな新年のスタートになった。

## 新成人を祝うとともに、新年会を開催 ウリ民族同士成人祝賀会

今年の新成人者を祝賀する場として、韓青関西地方協議会と学生協の共催で「ウリ民族同士成人祝賀会」が1月15日(日)、KOKOカフェ(大阪市東淀川区)で開かれた。

成人祝賀会では第1部として伝統成年式が行われた。伝統成年式とは、高麗時代にその端を発する朝鮮民族の伝統的な成人式で、子どもの衣服を脱ぎ、成年期の服装を着ることで、肉体的な成熟だけでなく、精神的な成熟を強調し、真の大人としての品格を備える儀式だ。



▲伝統成年式に参加した新成人

伝統成年式終了後には、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が祝辞を通じ「成人者の皆さん、おめでとうございます。昔とは違い、現在は就職することも、結婚して家族を作ることも難しい社会になっていますが、一人一人が民族意識をしっかりと持って、困難を乗り越える立派な大人に

なってください」と述べ、成人者に記念品を贈呈した。

そして、成人者各自から「これまで民族的に育てて頂いた両親や韓青の先輩・仲間へ感謝しながら、一人の大人として頑張りたい」、「しっかりと自立した大人になります」といった抱負が語られ、参加者全員から温かい拍手が送られた後、記念写真を撮影した。

続けて第2部では新年会が行われ、康帝洙(カン・チュス)学生協会長が乾杯挨拶を行った後、食事を交えながら親睦と交流の時間がもたれた。

また新年会では、ゲーム企画が進行され、大いに雰囲気盛り上がり、その後、韓青・学生協の今後の活動紹介が行われ、最後に李俊一(イ・チュニル)韓青大阪府本部委員長が閉会挨拶を述べ、成人祝賀会は終了した。

## 〈次代を担う若者たち〉 —韓青大阪本部 活動紹介—

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一(イ・チュニル)です。

今号が発刊されている頃にはもう2月ですが、今年初めての投稿ですので、あらためて新年の挨拶をさせていただきます。새해 복 많이 받으세요. 올해도 잘 부탁드립니다(新年、福をたくさん受けてください。今年もよろしくお願い致します)

昨年は生野北、布施両支部の定期大会の開催やキャンドルデモなど大きな出来事がたくさんあった年でした。今年も精力的に同胞青年のために、祖国と民族のために頑張っていきたいと思います。

今年の活動初めは1月3日の新年会からでした。毎年恒例、私の家に盟員たちを招待しまして新年会を行ったのですが、引越によって多少部屋が広がったので快適に過ごせました。正月ということでトックをふるまったのですが、来たメンバーのほとんどが、私より料理が上手な面々だったので新年早々緊張しました。幸い好評を頂き一安心。書初めも行い、新年の抱負を共有しました。

また1月15日には、同胞新成人を祝賀する「ウリ民族キリ！成人祝賀会」を開催しました。当日はチマチョゴリを着た新成人たちに、わが民族伝統の成人の儀式伝統成年式を執り行い、民族的に成人を祝賀しました。この伝統成人式も今回で7回目を数え、スタッフも板についてきました。韓青ならではの成人式として今後も続けていきたいと思っています。

今年は韓国大統領選挙も控え激動の情勢です。私たち韓青大阪本部は、今年も青年として澁刺と活動していきたいと思っています。



▲成人式での記念写真

## 金国一君への友人を代表しての弔辞

韓統連中央本部議長 孫亨根 (ソ・ヒョンゴン)

青年時代から韓国の民主化と祖国統一の実現のために活動された、金国一 (キム・ギル) 韓統連大阪本部監査が、昨年12月30日に亡くなりました。告別式で友人を代表して、孫亨根韓統連中央本部議長が弔辞を送られましたので紹介します。

突然の訃報に当惑しています。そんな状態のまま、ここに駆けつけましたが、もし私が弔辞をしなかったら、あとで必ず後悔すると思い、あえて志願しました。金国一君が残した民族に関わる業績を、誰よりも私が紹介しなければならないということでした。

高校時代、朝鮮奨学会のサークル「青丘」に属したことが君の民族運動の第一歩でした。その時の仲間である金泰憲 (キム・テホン) 氏、金昌秀 (キム・チャンス) 氏、姜明寿 (カン・ミンソ) 氏とともに、1972年7・4南北共同声明発表に対する感動と熱気が君ら若者のその後の人生を決定づけたのでしよう。

1974年、大阪市北区中崎町にあった韓青大阪本部を頻繁に訪ねてくるようになった20歳の君と22歳の私とは意気投合して「祖国の民主化」について熱い討論を重ね、その結果、私に続いて君も韓青大阪本部の常勤となり、以降7年間にわたって、私たち2人は寝食を共にすることになりました。

1975年、君はウリマル (母国語) の演劇「チノギ」公演でひょうきん者のテテ役を見事に演じて、感激した観客からの拍手喝采を浴びました。その後、朴正熙射殺事件、光州抗争、金大中救出運動と情勢が激動する中、韓青大阪本部副委員長として運動の第一線に立ち、多くの後輩活動家を立派に教育し、またその間、布施支部と西成支部で委員長職を歴任した君は韓青活動でいつも輝いていました。

1981年、韓青を卒業して会社員となるやいなや、さっそく君は韓青への財政支援を開始し、今日に至るまで約35年間にわたって韓青OB・韓統連会員として誠意を尽くし続けてくれました。それは正に組織の模範でした。

2004年祖国訪問を実現した韓統連は、その長年にわたる運動が高く評価され、韓国の市民・社会団体の人々から大歓迎を受けました。その時、故金泰憲君の遺影を掲げることで君は彼との同志

的な義理を守りました。帰日した直後の集会で君が「次は祖国統一を成し遂げよう！」と発言しましたが、その興奮した迫力ある声が未だに私の耳から離れません。

1978年春、雨漏りしていた韓青大阪本部を屋根職人だった君のアボジ (父) が修理してくれました。私が差し出した代金を受け取らず「運動に使いなさい」と言ってくれた、やさしいアボジの顔が忘れられません。あらためて君とアボジにお礼を申しあげます。その20年後、韓統連大阪本部事務所の改装工事でも、君が多大な貢献をしたとも聞きました。

君が10代の頃に行方不明になったオモニ (母) がいました。そのオモニが「慶尚道の故郷に来た」という韓国からの消息を聞いた君は、韓国への往来が可能となると、さっそくオモニを探すために故郷に行きましたね。「故郷を離れた後のオモニの消息が結局つかめなかった」と言い落胆していた君の姿も目に浮かびます。だけど君の誠意はオモニにはきっと届いたはずですよ。

4年前、朴槿恵が政権を握ると、保守政権の再登場に憤慨し、その怒りが爆発した君は「親日独裁者の娘、朴槿恵が大統領になったことは容認できない」というメールを私に送ってきました。しかし、君の怒りが伝わったのか、今や韓国の国民はキャンドルをもって皆が立ち上がり、朴槿恵とその体制を終わらせようとしています。今度こそは私たちが勝利しなければなりませんね。

祖国に対する真心と組織に対する献身を最後まで実践した君は本物の愛国者です。私は今日、愛国者としての君を見送るためにここに駆けつけました。国一 (ギル) ! ありがとう! 合掌。



▲故金国一監査

## 【投稿】

## 民団中央本部の深刻な病巣 ～「少女像の撤去」を訴える民団中央本部団長の妄言～

民団中央本部団長が新年会で「釜山の少女像の撤去」を訴えたという記事が、朝日新聞（1月13日付）に大きく掲載された。団長は韓日合意を両国関係発展のための英断であると評価し、撤去は100万在日同胞の共通の思いであり、最大の被害者である在日同胞のために韓国政府に撤去を求める活動をしていくという。

ヘイトスピーチに象徴される差別排外主義が蔓延し、閉塞感が在日同胞社会を重く覆っているのは事実であろう。しかし、その原因を作っているのは少女像ではない。閉塞感をつくっているのは、その少女像の撤去を迫っている日本政府なのだ。

民団中央本部団長の発言は「慰安婦」問題の本質を見誤り、在日同胞はもちろん、日本国民にも誤ったメッセージを送る危険な妄言といわざるをえない。

### ●「慰安婦」問題の原因は日本政府

2007年、アメリカの上院の「慰安婦」に対する日本政府の公式謝罪と歴史責任を求める決議に対して、日本の右翼は猛反発し「慰安婦は強制されておらず、性奴隷ではない」という意見広告をワシントンポストに掲載し、ひんしゆくを買ったことがあった（安倍首相も当時議員として名を連ねている）。日本軍「慰安婦」問題は、アジアはもちろんアメリカをはじめ世界が認める日本の国家犯罪なのである。日本政府も、河野談話で認めたにもかかわらず、安倍政権以降、歴史修正の動きが加速し、世論が大きく右旋回してしまった。

日本の敗戦70周年の2015年11月に、急きょ設定された韓日首脳会談でも、日本政府の国家的・法的責任を回避する姿勢は変わらず、12月28日、韓日外相が発表した「10億円払うから少女像を撤去し、今後一切問題にするな」という傲慢な合意に、韓国国民が反発するのは当然のことである。

しかし、民団中央本部は去年の1月にも本国の主要新聞に韓日合意を称賛し、本国の国民に「大局の見地から協商の結果を受け入れてほしい」という意見広告を掲載している。韓国の世論を日本の世論が受け入れないからといって、その仲介に入るならまだしも、日本の側に立って合意の履行を訴えているのは、日本政府の走狗といわれてもしかたがないだろう。

### ●在日同胞の団結した闘いのみが唯一の解決方法

今、民団中央本部に求められているのは、在日同胞の真の思いを理解することだ。朝鮮学校への差別を在日の民族教育への差別であると認識し、総連への弾圧を在日同胞団体への弾圧であると正しく認識し、同胞愛をもって民族的に行動することだ。

民団新聞では「韓日の合意が履行されなければ、問題は永遠に解決されない。両国関係が冷え込めば私たち同胞は、またも息を殺して生きていかねばならないのか」という中央本部団長の悲痛な叫びも掲載されている。



▲釜山に設置された少女像

改めて民団中央本部団長に言いたい。少女像を撤去しても問題は解決しない。否、むしろもっと深刻化するだろう。日本政府をなめてはいけない。また再びの侵略戦争を目論む安倍政権は、民団中央本部にさらに追い打ちをかけてくるだろう。

おりしも2018年、平昌（ピョンチャン）冬季五輪の大会組織委員会の公式HPの地図に、独島を韓国名で表記したことに関して、日本の外務省は「竹島は日本固有の領土であり、五輪で政治宣伝を禁止している国際オリンピック委員会（IOC）の五輪憲章に違反する」と抗議したという。このことで韓日関係が悪化したら、またも民団中央本部は100万在日同胞を代表して、表記を控えてくれと主張するのだろうか。一步の譲歩が、死を意味することもあるのだ。（隆）

◆◆読書紹介◆◆

## 動物たちの武器 闘いは進化する

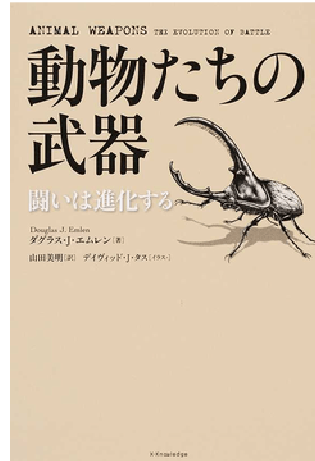
著者ダグラス・J・エムレン

出版：エクスマレッジ／2376円

本書は、国際政治や現代史、地政学や外交・安全保障政策に関する学者・評論家・専門家などが書いたものではありません。著者は動物や昆虫などの生態や進化などを研究している生物学者です。

本書では、動物や昆虫たちが生存上の資源（餌・場所・配偶者）を求めて、どのように武器（ハサミや角、牙や爪など）を進化させて軍拡競争を繰り広げ、戦ってきたかを豊富なカラー写真とイラスト、文章で説明しています。

本書では、カブトムシやシオマネキ、アフリカゾウなど様々な種類の生物たちの軍拡競争と戦いを豊富な実例によって描いています。特徴としては、抑止力向上という名のもとに、お互いの生物同士が軍拡競争を激化させると、武器はますます巨大化・進化したりすることです。そして、私が本書が読みごたえのある本だと思う理由は、生物たちの軍拡競争が、人間たちの軍拡競争にも当てはまるということです。抑止力の向上や自衛という口実で行われていることで、生物の軍拡競



争と人間の軍拡競争には類似性があることがよく分かります。

本書の推薦文には「動物たちの武器の進化と生存闘争についてのみならず、人類の歴史も考察し、

双方の軍拡競争から高度な関係性を導き出している点が、まさに圧巻である」と書かれています。

国家間の軍拡競争の歴史も書かれている本書を読んで改めて感じたことは、A国とB国が敵対関係にあった場合、A国が軍事力増強を実施すると、それに対応してB国も軍事力の増強を実施し、両国が軍拡競争の悪循環に陥るといことです。

現在、サードミサイル配備問題をめぐって配備推進側のアメリカ・韓国・日本と配備反対側の北朝鮮・中国・ロシアとの間で対立が深刻になり、軍拡競争が激化する危険性があるからこそ、軍拡競争の歴史について書かれた本書を読むことをお勧めします。李淳明

◆◆行事案内◆◆

<p><b>韓統連生野支部定例学習会</b>  <b>人物に見るウリ歴史シリーズ</b>  <b>第1回 緑豆 全瑛準 (ジョン・ボンジュン) 将軍</b></p> <p>日時：2月12日(日) 午前11時～                  場所：韓統連生野支部                  大阪市生野区勝山南4-1-13                  参加費：会員：300円・一般：500円                  連絡先：090-4561-8414 (孫まで)</p>	<p><b>2017年連帯の夕べ</b></p> <p>日時：2月19日(日) 午後5時 受付                  午後5時30分 開会                  場所：KCC会館(地下鉄今里駅下車徒歩10分)                  内容：第1部 記念講演「韓国情勢の展望と課題」                  講師：孫亨根(ソン・ヒョングン) 韓統連中央本部議長                  第2部 懇親会                  参加費：3000円                  主催：韓統連大阪本部 06-6711-6377</p>
---	--

**編集後記**

毎年、年末年始は札幌に帰省しますが、いつも天候が気になり、大阪から出発する際は「飛行機は降りられるだろうか?」、札幌を出る際は「飛ぶだろうか?」と心配します。今年の冬はどこも厳しいです。寒さに負けず、頑張りましょう! (ソン)

